ネクスト・イット

郵船情報開発がセキュリティ性能と価格とのバランスがとれたUTM製品として「Astaro」を採用

郵船情報開発は、日本郵船の情報システム関連会社として、陸海空の国際輸送、物流に関わるシステム開発、技術要員の支援サービス、システム保守サービス、ハードウェア・ 通信技術サービスなどを担当している。また、自社開発のパッケージソフトウェアの販売をはじめ、システムインテグレータとして関連するハードウェアの販売やネットワーク構築なども多く手がけ、セキュリティ機器等も数多く販売している。この郵船情報開発が、お客様からの要望が多かったスパムメール対策やURLフィルタリング等を行うUTM（Unified Threat Management）製品として、ネクスト・イットの「Astaro Security Gateway Hardware Appliance シリーズ」を採用した。

Astaroを採用、および取扱い、販売しようとしたきっかけについて、郵船情報開発の担当者は次のように語っている。

「2006年から2008年にかけてスパムメールが爆発的に増えた頃、既にファイアウォールを持っているお客様が、スパム対策やURLフィルタリングなど、UTM製品の導入を希望してくるようになりました。当時、クライアントベースの対策ソフトはアンチウイルス中心で、スパムに対してはまだ機能が成熟してはおらず、加えて業務中の不適切なWebサイトへのアクセスに対して問題視する傾向が顕在化し始めた時期でした。もちろんその頃には、既にそれぞれの機能を果たす専用機は存在していましたが、積み上げていけば高価になりますし、機能が重複してしまうことが問題でした。その頃は、既に数社からUTM製品が販売されていましたが、URLフィルタは高精度ながらアンチスパムはいま一歩など、機能にむらがある物も少なくありませんでした。Astaroは後発の製品である強みとでも言いましょうか、最初からUTMとして設計されているので各機能のバランスが良く取れていたという印象があります。当初は、評価機を借りてしばらくUTMの各機能をお客様に体験していただきました。評価していただいたお客様は、そのバランスの良さ、運用管理のしやすさから、ほぼそのまま導入を決定されました。UTMの機種選定は、価格・精度・スピードの総合評価になると思いますが、Astaroはその辺りをわかっているかのように、ファームウェアのバージョンが上がる度、総合的に良くなっていったという印象があります。」

UTM製品を実際に扱う立場として、次のようなことも評価ポイントにしたそうである。

「この手のものを管理する立場の人から見て、AstaroはUTMとしてこなれていた（いる）ように感じました。直観的に操作できるGUIをはじめ、機能的にもIPSec VPNやPOP3プロキシなどは、同じ時期の他社製品はオプションだったり機能が無かったりと、先鞭を付けていた印象があります。先鞭を付けてきたからこそ、他社が標準でそれらの機能を実装してきた時には、Astaroは既にこなれていて安定動作していた、ともいえます。仕様・機能的な部分では、ポート数の制限が無くてゾーンのセグメントが切り易かったのと、前面の液晶の表示が便利だと思います。その都度コンソールを開かなくとも必要最小限の情報が得られます。また、比較的ハードウェアトラブルが少ないところも好印象です。今後は、クラウドに視点を据えた製品が求められてくると思いますので、そのニーズに対応した製品（Astaro RED）にも期待したいですね。」

ネクスト・イット　Eimail：info@nextit.jp